弥富北中学校学校便り　No. １４

至　誠

令和２年１月21日発行

「多様性」があたりまえ～校長先生・朝礼講話より～

今年度は、１年間「基本のＡＢＣ」をテーマに話をしていますが、今日は、その「Ａ－あたりまえ」について考えてほしいと思います。

私たち日本人は同じ考えの人とばかり群れる傾向があり、それは、日本人のあまりよくないことのひとつとして言われることがあります。確かに、日本人は、人と違うことを嫌ったり、人と同じだと安心したりする傾向があるように思います。それは、「あたりまえのこと」を「同じ考え・多数意見のこと」と考える人が多いからかも知れません。私自身も、人と違うと不安だったり、同じだと安心と感じたりすることがあるし、皆さんもそう感じることが多いのではないでしょうか。

でも、今の時代は「多様性」があたりまえ、「多様性」がないと生きていけないようになってきています。みんな違って、みんな良い。もちろん、ルールもあると思いますが、そのルールの範囲の中では、いろいろ違ってもよい、みんな違ってみんな良いということです。

３年生が、今、直面している進路のことで考えてみると、多くの人が高校への進学を考えています。でも、進路はそれだけではありません。社会に出て、社会人として認められ、働いて収入を得るという進路もあります。さらに進路とは、中学校卒業後のことだけを言うのではありません。高校へ入るだけではなく、自分の人生設計として将来どうしていくかを考えることが、進路を考えるということです。高校・大学だけではなく、もっともっと先のことを含めて進路を考えてほしいと思います。

３年生だけではなく、１・２年生も含め、中学生の皆さんに「あたりまえ」のこととして「進路の多様性」も考えてほしいと思います。

例えば、次のような例があります。今年３月海部地区で退職される校長先生で、４月から海外シニア派遣に出られ、海外の日本人学校で勤務する予定の先生がみえます。しかも、校長としてではなく一教員として海外へ行く予定だそうです。これは、すごいことだと先生は思います。なぜ、そんなことをするのか尋ねたところ、「これが夢だった。」と言われました。

また、先生の中学校の同級生で、５０歳で勤めていた会社を辞め、起業（会社を起こした）し独立した人がいます。その人の勤めていた会社はいわゆる一流企業で、その人はその会社で管理職をしていました。毎日の生活を送るのに何の問題もない状況だったそうですが、自分の夢を求め、会社を辞め、起業したそうです。

始業式で話したように「自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ」

この二つの例は、まさにこのことですね。そして、自分の夢に向かって挑戦し続けて、変えていく。これが素晴らしい進路・人生であると思います。皆さんは、まだ、スタートラインに立ったばかりです。可能性は無限です。自分を信じて、自分で自分の道を切り開いていきましょう。